

さざなみ No.33 (2014.7)

著者	滋賀医科大学附属図書館
発行年	2014-07-28
URL	http://hdl.handle.net/10422/6711

外国雑誌/電子ジャーナルをめぐる現在の状況を簡単に報告します。

【2015年外国雑誌/電子ジャーナル購読誌選定スケジュール】

来年(2015年1～12月)購読する外国雑誌/電子ジャーナルの選定スケジュール(予定)は次のとおりです。



6月12日 附属図書館備付外国雑誌検討WG
2015年の選定方針を確認しました。選定スケジュール・選定方法は昨年とほぼ同様です。



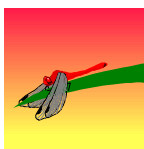
7月1日～7月31日 附属図書館備付外国雑誌講座推薦調査
各講座等に、図書館で備え付けを希望する外国雑誌/電子ジャーナルを照会します。



8月上旬～中旬 講座等備付雑誌購読調査
各講座等の予算で購読する雑誌/電子ジャーナルを調査します(雑誌/電子ジャーナルの契約事務は、図書館で一括しておこないます)。



9月～10月 雑誌価格調査等
雑誌/電子ジャーナルの価格を調査し、図書館備付として購読できそうな外国雑誌/電子ジャーナルの範囲を決めます。



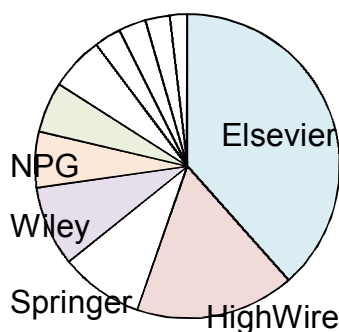
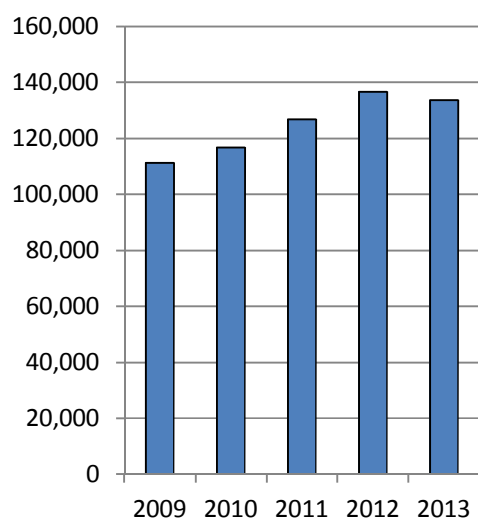
10月中旬～下旬 選定外分の講座購読意思調査
図書館の予算枠で購読できそうにない雑誌/電子ジャーナルについて、講座等で購読する意思があるかどうかを確認します。

10月下旬以降 外国雑誌/電子ジャーナル契約手続き
図書館で外国雑誌/電子ジャーナルの契約手続きをおこないます。



11月以降 2015年購読予定外国雑誌/電子ジャーナルの概要は教授会等で報告します。

【利用統計】



Elsevier	38.4%
HighWire (※)	16.9%
Springer	8.9%
Wiley-Blackwell	8.5%
NPG	5.9%
LWW	5.4%

利用統計から、電子ジャーナルはとてもよく利用されていること、2013年は主な出版社のものだけで130,000件以上の論文が利用されていることがわかります。

出版社別にみると、Elsevier社から発行されている雑誌論文の利用が全体のほぼ1/3を占めています。

※全ての電子ジャーナルの利用統計が入手できているわけではありません。比較的大きな出版社の利用統計を分析した結果です。

※ HighWireは出版社ではなく、学会誌等を提供するシステムです。

【論文単価】

論文単価(2013年)	372円
pay per view	2,500～3,500円

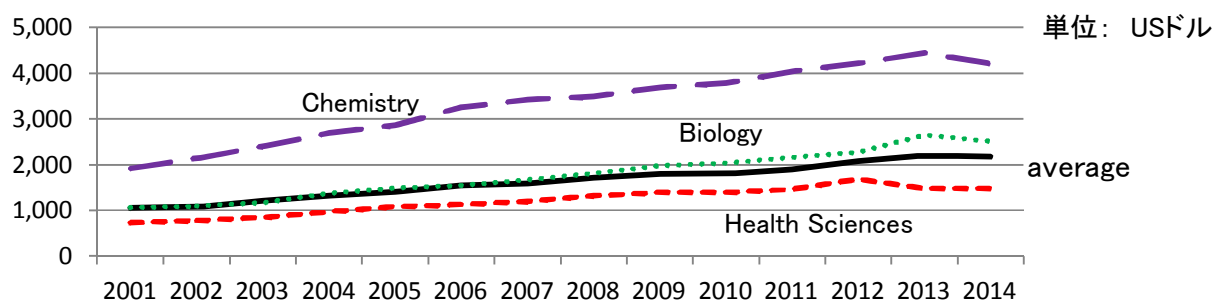
2013年に本学が外国雑誌/電子ジャーナルを購読するために支払った経費(図書館予算だけでなく、講座で購読した経費を含む)を論文の利用数で割り、1論文あたりの単価を算出すると 372円になります。

電子ジャーナルは、pay per view といって、個人のカード決済で論文を購読することもできます。出版社によって、また、論文の種類によって異なりますが、1論文あたり2,500～3,500円で販売されていることが多いようです。

滋賀医科大学ではかなり経済的に論文を購読できているといえます。

【原価の上昇】

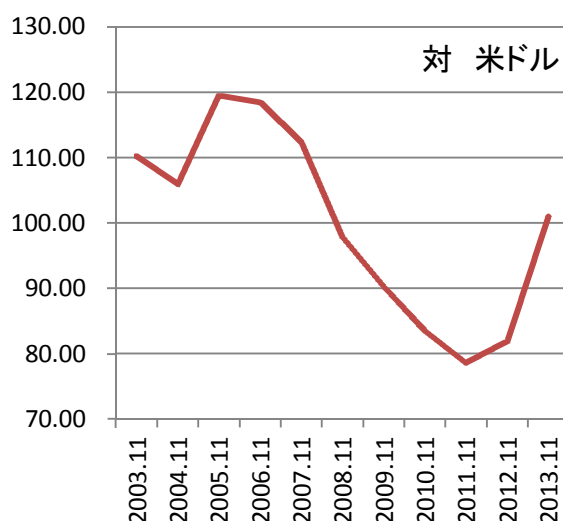
大変便利な電子ジャーナルですが、その購読に要する経費は毎年上昇しています。米国で販売されている学術雑誌/電子ジャーナルの平均価格は、2001年から2014年まで毎年5.8% 上昇しています。(※ Library Journal 誌の Periodicals Price Survey より作成)



【円安】

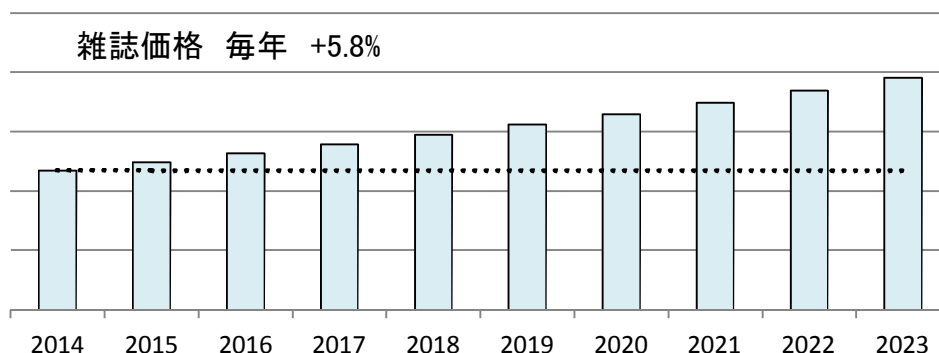
外国雑誌/電子ジャーナルは海外製品ですので、為替変動の影響を受けます(円建て価格で販売されている雑誌もありますので、全ての雑誌が影響を受けるわけではありません)。

2012年末以降の円安は急激なものでした。2012年11月は(1ドル=81.89円)でしたが、2013年11月には(1ドル=101.02円)とほぼ23%上昇しています。その結果、外国雑誌/電子ジャーナルの価格の上昇はとて大きなものとなりました。



【今後の予想】

今後も外国雑誌/電子ジャーナル価格は、毎年上昇していくものと予想されます。仮に購読予算が維持できたとしても、購読できるタイトル数は毎年削減していかざるを得ません。



【Elsevier社 回数券方式の導入】

毎年続く電子ジャーナルの価格上昇に加え、2012年末以降の急激な円安の影響を受け、2014年は、電子ジャーナルを大幅に削減せざるを得なくなり、2013年におこなった購読希望調査の結果を踏まえて検討した結果、Elsevier社のSubject Collection というパッケージ契約を断念することになりました。

※ パッケージ契約を維持した場合、購読希望調査で要望の高いタイトルを大幅に削減する必要がありました。

ただ、Elsevier社のパッケージは非常に利用が多いことから、何らかの対策を検討する必要があり、新たに回数券方式を導入することになりました。回数券方式の詳細は、2014年3月26日付け図書館ウェブサイト掲載ニュース、「さざなみNo.31(2014年6月)」をご覧ください。

【電子ジャーナル選定方法】

外国雑誌/電子ジャーナルは、講座等からの推薦に基づいて選定しています。

各講座には一律100ポイントの投票権があります。各講座は100ポイントの持ち点を雑誌の必要度に応じて重みづけをして投票します。図書館では、その結果を集計し、各講座の教員数に応じて補正した値をもとに、雑誌毎の獲得ポイント数を算出し、そのポイント数の高いものから順に、予算の範囲内で購読誌を選定していきます。

出版社によっては「パッケージ契約」が可能なところがあります。個別に雑誌を購読する方がよいのか、あるいは、パッケージ契約をした方が有利なのか、必要経費と利用のバランスを考慮して選択する必要があります。

【パッケージ契約】

「パッケージ契約」とは、これまで支払ってきた学術雑誌の購読料に一定額の追加料金を支払うことで、出版社が発行している電子ジャーナルの一部、あるいは、大部分を利用できるようにする契約のことです。

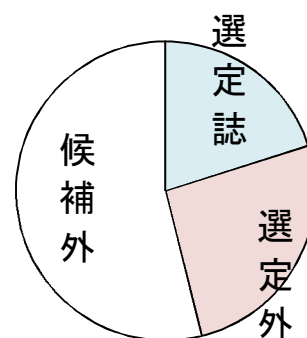
	2009	2010	2011	2012	2013	2014
Am.Chem.Soc.	○	○	○	○	○	○
Elsevier	○	○	○	○	○	×
LWW	○	○	○	○	○	○
Oxford UP	○	○	○	○	○	○
Rockefeller UP	○	○	×	×	×	×
Springer	○	○	○	○	○	○
Wiley-Blackwell	○	○	○	×	×	×

パッケージ契約を維持している間は、多くの電子ジャーナルが利用できますが、パッケージ契約料金自体が毎年値上がりしますので、これを負担できなくなると、多くのタイトルが利用できなくなります。一方、パッケージ契約の維持を優先すると、パッケージに含まれないタイトル(学会誌など)を購入するための予算が減ります。双方のバランスは大変難しい問題です。

【パッケージ契約の特徴】

パッケージ契約している出版社の利用統計を分析した結果、購読誌の選定時に明確な要望としてあらわれてこなかったタイトルの利用が案外大きなものであることが判明しました。

- 「選定誌」 購読希望調査の結果、購読することになった雑誌
- 「選定外」 調査対象となったが選定されなかった雑誌
(パッケージ契約することにより利用可能)
- 「候補外」 調査に全く名前のあがってこなかった雑誌



に分けて利用統計を調べたところ、選定誌は、選定外や候補外に比べて1誌当りの利用数は大変多いものの、その合計は全体の1/5程度にすぎません。一方、「候補外」の雑誌の利用は過半数を占めています。